

主な内容

巻頭言—— 赤坂医学部長就任挨拶  
高田全学教育推進機構長就任挨拶  
高橋教養教育センター長就任挨拶  
千葉附属内丸メディカルセンター長就任挨拶  
村山事務局長就任挨拶

特集—— 医歯薬総合研究所の新体制  
～ 医歯薬連携で拓く新たな研究拠点～

令和8年度事業計画

トピックス—— 岩手医科大学入学式が挙行されました

募金状況報告

表紙写真：春を迎えた矢巾キャンパス

## 医学部長就任挨拶

医学部長 赤坂 真奈美

(小児科学講座 教授)



この度、理事長祖父江憲治先生、学長小笠原邦昭先生、副学長仲哲治先生および理事会と関係各位の皆様のご高配により、2026年4月1日付けで医学部長を拝命しました小児科の赤坂です。小児科学分野は日々多くの診療科、スタッフの方々と連携して臨床、研究、学生教育を行っています。日頃の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今後は診療科の枠を超え、さらなるご理解をいただきたいと思えます。

さて今年度私たちは、これまで進められてきた医学教育改革の骨子を、スピード感をもって確実に実行することが求められています。1月の一般入試日程が2月に変更されます。昨年度入試改革の一環として大幅に変更された新たな面接手法を検証し、エビデンスのあるより良いものにしていく必要があります。盛岡一高との「医系コース」連携協定事業、7年ぶりに11月に行われる医学教育分野別評価への対応、教育の国際化などやるべき課題はたくさんあります。さらに今後しっかりと国に認めていただける大学になるためには、研究力を高めていくことも重要です。そのために、働き方改革が定着しつつあるなか、自己研鑽に充てる時間の捻出が必須です。学生教育においてかなりの時間と労力を要していた試験問題作問やブラッシュアップの負担

を軽減し、岩手医科大学が最新の情報を収集し活用するために、他大学と連携する新学生教育システムの導入とDX化を進めてまいります。近年岩手医科大学の医師国家試験合格率は確実に上昇しましたが、ここ数年頭打ちです。これを打破し合格率をさらに向上させるためにも、他大学の状況を知り、切磋琢磨することが必要不可欠です。

院内における委員会活動と定員数を見直し、類似の委員会は集約・統合を進め、会議の回数を減らして効率化することで時間を確保し、大学の総力を高めてまいりましょう。私の役割の一つは、大学から示される方針や向かうべき正しい道をしっかりと皆様と共有し、理解と協力をえながら確実に前に進めていくことだと考えています。岩手県はもとより北東北にとってなくてはならない岩手医科大学が、ますます地域に必要とされ、やりがいや魅力にあふれ、活気ある大学となり、学生や若手医療者たちから選ばれる大学に発展していくよう、微力ながら尽力してまいりますので、ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

# 全学教育推進機構長就任挨拶

全学教育推進機構長 高田 亮

(医学教育学講座医学教育学分野 教授)



このたび、令和8年4月1日付で全学教育推進機構長を拝命いたしました。前機構長が築かれた基盤を継承し、発展させるべく、誠心誠意取り組んでまいります。

今日の医療現場では、多職種が専門性を持ち寄り、患者さん中心に協働するチーム医療が不可欠です。本学の全学教育は、そうした医療の実態に向き合い、専門教育の土台にとどまらず、医療人としての判断力・協働力・倫理観を育む学びの中核を担うものと位置づけています。

本機構の強みは、医・歯・薬・看護の4学部が同一キャンパスで学ぶ環境にあります。異なる専門を志す学生が早い段階から共に学び、対話し、互いの専門性を理解し合うことは、将来のチーム医療の基盤となります。この環境を最大限に生かし、学部横断的な教養教育と多職種連携教育を実践するこ

とが本機構の使命です。知識や技術を学ぶだけでなく、他者の専門性を尊重しながら最善の医療を共に考える力を、学生時代から育てることが、これからの医療人養成に欠かせないと考えています。

今後は、多職種連携教育の充実に加え、行動科学や倫理など、医療者の判断と行動を支える教養科目を高学年でも学べる仕組みを整えてまいります。医療人に求められるのは、「何を身につけ、どう行動できるか」です。学修者本位の視点に立ち、学びが臨床実践に結びつく教育を推進し、社会から信頼される医療人の育成に尽力してまいります。皆様のご指導、ご支援を賜りながら、教職員・学生と力を合わせ、本機構の発展に努めてまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

# 教養教育センター長就任挨拶

教養教育センター長 高橋 史朗

(情報科学科医学統計情報学分野 教授)



このたび、本年4月1日付けをもちまして、教養教育センター長を拝命いたしました。微力ではございますが、本学の教育の充実と発展に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

近年、我が国では少子化の進行に伴い、18歳人口の減少が続いております。このような状況の中で大学には、従来以上に社会的責任と教育の質の保証が求められています。同時に、入学してくる学生の背景や学習経験、価値観は一層多様化しており、画一的な教育では対応しきれない時代となっています。本学においても、多様な学生一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育の在り方が問われています。とりわけ重要なのは、高校までの「教わる学習」から、大学における「主体的な学修」への円滑な転換です。大学では、知識の習得にとどまらず、自ら問いを立て、考え、学び続ける姿勢が求められます。しかしながら、その転換には戸惑いや困難が伴うことも少なくありません。初年次教育は、こうした学びの転換を支え、学生が主体的に学ぶ力を身につけるための基盤を形成する重要な役割を担っています。

本センターでは、学修者本位の視点に立ち、少人数教育を重視したきめ細かな指導を図りたいと考えております。学生一人ひとりの理解度や関心に応じた支援を行うことで、自ら学ぶ意欲を引き出し、学びの質を高めていくことを目指します。また、教員と学生、さらには学生同士の対話を大切に、相互に学び合う環境づくりにも力を入れてまいります。さらに、本学は医・歯・薬・看護学部を有する総合医療系大学であるという大きな特色を有しています。この強みを生かし、初年次教育の段階から多職種連携教育を取り入れることで、将来の医療現場において必要とされる協働の力や相互理解の姿勢を育てていきたいと考えております。

教養教育センターは、専門教育へとつながる基盤を築く場であると同時に、学生の成長を支える出発点でもあります。これからの時代に求められる医療人の育成に向けて、教職員一同、連携しながら教育の充実に取り組んでまいります。今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# 附属内丸メディカルセンター長就任挨拶

附属内丸メディカルセンター長 千葉 俊美

(口腔医学講座関連医学分野 教授)



この度、下沖 収先生の後任として岩手医科大学附属内丸メディカルセンター長を拝命致しました。皆様に御指導を頂きながら重責を果たすべく努力して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

当センターは、2019年9月に本学附属病院の矢巾移転に伴い、盛岡市内丸地区に開院致しました。そして、2026年4月1日に附属病院再編に伴い、附属内丸メディカルセンターは診療科を縮小して新たに診療を継続しています。内丸地区は岩手医科大学の発祥の地でございますので、地域に根差した医療および本学附属病院と連携を取り先進医療の橋渡しとして大切な役割を引き続き担って参ります。

内丸メディカルセンターの診療科は、総合診療科、リプロダクションセンター（婦人科）および歯科です。また、本学学生および研修医の実習場所としての位置付けもごございます。総合診療科は、当センターの受診を希望する患者様の診療およびオープン外来として一部の専門外来を継続致しま

す。リプロダクションセンター（婦人科）は、高度な不妊治療、プレコンセプションケア（妊娠前の健康管理）、不妊相談、良性婦人科疾患の診療などを引き続き行い、相談しやすい環境をさらに整えて参ります。歯科医療センターは、口腔内の健康管理を図る診療を継続して参ります。全身麻酔を用いる歯科治療は矢巾の附属病院で行いますが、う蝕、歯周病および義歯の治療は当センターで行います。そして、矯正歯科および口腔インプラント科の診療も引き続き当センターで行いますのでよろしくお願い致します。

交通の利便性の良い内丸地区の医療機関として、市民の皆様の期待に応えられるように、皆様のご意見を頂戴し、本学の理念である「誠の精神に基づく、誠の医療の実践」に則り、信頼される医療機関として新たな内丸メディカルセンターを構築して参る所存でございますので引き続きよろしくお願い申し上げます。

# 事務局長就任挨拶

事務局長 村山 裕孝



この度、伝統ある岩手医科大学の事務局長を拝命いたしました。本学の歩んできた長い歴史と建学の精神に思いを致しますと、その職責を担う機会をいただいたことに、深い感謝とともに身の引き締まる思いを抱いております。

現在、日本の大学および医療を取り巻く環境は大きな変革のさなかにあります。「2040年問題」——18歳人口の激減、そして社会構造の変化に伴う医療需要の変容は、もはや従来の延長線上にとどまらない対応を求めており、事務局の果たすべき役割は一層重要性を増しています。

こうした中、事務局は単なる管理機能にとどまることなく、大学のビジョンを自らの言葉で語り、経営を戦略的に支える

中核として、具体的な施策を着実に具現化してまいります。10年、20年後から逆算し、本学が「選ばれ続ける大学・病院」であり続けるための基盤を主体的に構築していく所存です。

その実現には、すべての事務局職員が当事者意識を持ち、相互に連携することが不可欠です。組織の枠を越えた協働を一層推進し、教職員一人ひとりが最大限に力を発揮できる環境を整えてまいります。

事務局が課せられた責務を全うし、次代を担う新たな価値創造に踏み出す節目の年と位置づけ、誠実に歩みを進めてまいります。今後とも、皆さまのご理解とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 特集

## 医歯薬総合研究所の新体制 ～医歯薬連携で拓く新たな研究拠点～

医歯薬総合研究所は、医学・歯学・薬学の枠を越えた融合研究の拠点として、基礎から臨床、さらには地域医療へとつながる新たな価値の創出に挑んでいます。本特集では、研究所の全体像とともに、最先端の研究成果、そして未来に向けた展望をご紹介します。

### 新体制の概要

少子化の進行や高等教育予算の抑制など、大学を取り巻く環境は急速に変化しています。もはや従来の延長線上では、大学が持続的な価値を創出し続けることは困難です。いま求められているのは、臨床・研究・教育のあり方そのものを抜本的に再構築し、未来に向けた新たな大学像を自ら描き出すことです。

特に地方の医科大学においては、地域に根ざした独自性を明確に打ち出し、地域社会とともに成長する「地域共創型大学」への転換が不可欠です。地域との連携を深化させ、産官学金の協働体制を強化し、地域から真に必要なとされる大学としての存在感を確固たるものにしていく必要があります。

こうした認識のもと、本学は2025年度より、学部横断の共同研究拠点として機能してきた医歯薬総合研究所の再構築に踏み切りました。若手研究者がPI（Principal Investigator：研究主宰者）として挑戦できるプロジェクト制の導入や、ウェットラボを共通基盤として再編することで、研究者同士が自然に交わり、新たな発想が生まれる環境づくりを進めています。

さらに、創薬研究を軸に産官学金連携を一段と強化するため、研究所を学部から独立した「地域共創型研究所」として位置づけました。岩手県には医療系ベンチャーが集積するTOLICがあり、医歯薬総合研究所は岩手大学などの研究機関との連携のもと、創薬・医療機器開発を推進する体制を構築しています。加えて、ベンチャー企業が研究所内の施設を活用し共同研究を行えるオープンファシリティやレンタルラボも整備し、地域との協働をさらに加速させます。

今回の再編は、国および文部科学省が示す「地方私立医科大学の将来像」を先取りし、具体的に具現化する取り組みです。医歯薬総合研究所は、地域に根ざした医系研究大学としての岩手医科大学を支える中核拠点として、次代に必要なとされる価値創出の基盤を着実に築いていきます。

### 組織構成

創薬研究を技術面から支援する「創薬支援リソース部門」、地域や企業との連携を促進させる「地域・産官学連携推進部門」、創薬研究のプラットフォーム型の研究を担う「基盤的研究部門」、創薬および医療機器の探索研究、開発研究を担う「創薬・医療機器開発部門」の4部門と電子顕微鏡等の機器操作、利用補助、測定解析、試料作製を行う「生命科学技術支援センター」、実験動物の飼育管理等を行う「動物研究センター」、本学のRI（ラジオアイソトープ：放射性同位元素）研究室である「アイソトープ研究室」（今年度閉鎖予定）です。

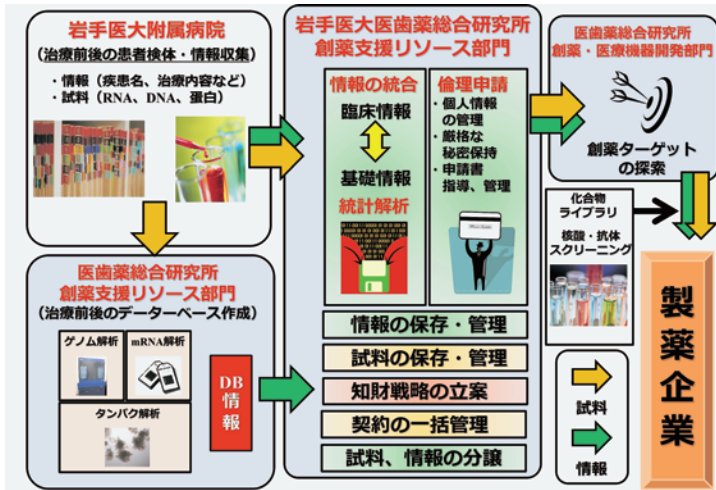
#### 医歯薬総合研究所

- 創薬・医療機器開発部門
- 基盤的研究部門
- 地域・産官学連携推進部門
- 創薬支援リソース部門
- 生命科学技術支援センター
- 動物研究センター
- アイソトープ研究室

## 部門紹介

新設された4つの部門はそれぞれの専門性を生かしながら相互に連携し、研究資源の集約、先端技術の活用、産学官連携の強化を通じて、大学全体の研究力を底上げし、地域とともに価値を創り出す“共創型研究拠点”として、医療イノベーションの創出を目指しています。各部門の役割をご紹介します。

### 創薬支援リソース部門



岩手医科大学における創薬研究の基盤を担う中核部門です。患者検体や臨床情報を体系的に集積し、ゲノム・タンパク質などの分子プロファイリングを実施することで、プレジジョン医療を支えるデータ基盤を構築します。これにより、地域発の創薬・医療機器開発を加速させる科学的リソースを大学内外へ提供します。

また本部門は、研究アドミニストレーション統括室（URA 統括室）としての機能も併せ持ち、研究倫理、契約、知財戦略を一体的に管理する体制を整備しています。研究の適正性と透明性を確保しつつ、産学官金連携を円滑に進めるための統合的支援

を行い、大学全体の研究力強化と創薬研究の推進を牽引します。

創薬支援リソース部門は、岩手医科大学が「地域共創型大学」として地域社会とともに未来の医療を創り出すための不可欠な研究基盤として機能します。

### 地域・産官学連携推進部門

岩手医科大学が地域社会とともに価値を創り出すための“協働のハブ”として機能する部門です。自治体、企業、大学・研究機関など多様なパートナーと連携し、共同研究の企画・調整、地域医療課題の解決、医療産業の育成につながるプロジェクトを推進します。地域のニーズを的確に把握し、それを大学の研究力へとつなぐことで、研究成果の社会実装を加速します。

岩手県内には医療系ベンチャーが集積する TOLIC があり、本部門はこうした地域資源と大学の研究力を結びつけることで、創薬・医療機器開発の新たな可能性を切り拓いています。地域企業との協働やベンチャー支援にも積極的に取り組み、地域発の医療イノベーション創出を後押しします。

地域・産官学連携推進部門は、大学と地域社会を双方向につなぎ、研究成果を社会に届ける“出口戦略”を担う部門として、岩手医科大学が地域共創型大学として果たすべき使命を体現しています。



開催した岩手医工・産学連携フォーラム

### 基盤的研究部門



高磁場 11.7T MRI

岩手医科大学が推進する先端研究を支える科学的基盤を整備する部門です。高磁場 11.7T MRI による超高精細イメージング研究、AI を活用した創薬プロジェクト、疾患プロテオーム解析など、大学が取り組む高度研究を横断的に支える設備・技術・専門人材を集約しています。これにより、研究者が最先端の手法を用いて挑戦的な研究に取り組める環境を提供します。

本部門は、共通機器の整備・運用、先端技術の導入、研究者への技術支援を通じて、学部横断的な研究協働を促進します。研究者同士が自然に交流し、新たな発想が生まれやすい環境を整えることで、大学全体の研究力を底上げし、創薬・医療研究の発展を力強く支えます。

基盤的研究部門は、大学の研究活動を支える“技術・設備の心臓部”として、次代に必要なとされる科学的価値の創出を担う重要な役割を果たします。

## ■ 創薬・医療機器開発部門

がん、免疫、代謝、神経など主要疾患領域の研究体制を整備し、基礎研究から創薬・医療機器開発までを一気通貫で推進する部門です。疾患メカニズムの解明、標的分子の探索、抗体医薬・低分子化合物の開発、医療機器・診断技術の創出など、多様な研究プロジェクトが展開されています。

本部門は、基礎研究で得られた知見を臨床応用へとつなぐ“実装エンジン”として機能し、大学の研究成果を社会に届ける重要な役割を担います。創薬支援リソース部門や基盤的研究部門と連携し、学部横断的な研究を推進することで、研究の流れを加速させ、地域発の医療イノベーション創出を目指します。

創薬・医療機器開発部門は、岩手医科大学が未来の医療を創り出すための中心的役割を果たし、地域社会の医療課題に応える新たな治療・診断技術の実現に向けて研究を推進します。



質量分析計

## 医歯薬総合研究所長へインタビュー



医歯薬総合研究所

所長 仲 哲治  
(岩手医科大学 副学長)

### Q 医歯薬総合研究所再構築の背景と目的は？

大学を取り巻く環境が激変する中で、われわれは“守りの姿勢”では未来を切り拓けないと判断しました。地方医科大学として地域に根ざしながら、創薬・医療機器開発を核とした研究力を再構築し、大学の存在意義を再定義する必要があります。今回の再構築は、若手が挑戦し続けられる研究所へと生まれ変わるための決断であり、地域から世界へ発信する研究拠点をつくるための戦略的な一歩です。

### Q 本研究所が担う役割を教えてください

本研究所は、岩手医科大学の研究力を束ね、社会へ確実に届ける“司令塔”です。臨床情報の集積、先端設備の共用、研究アドミニストレーションの統合管理を通じて、研究の基盤を強固に整えています。基礎から臨床、社会実装までを一気通貫で推進し、大学の知を地域の力へと変換する。その責任を担うのが、医歯薬総合研究所です。

### Q 特に注力している研究分野

がん、免疫、代謝、神経といった主要疾患領域に加え、AI創薬、超高磁場MRI、疾患プロテオーム解析など、未来の医療を左右する先端領域に重点を置いています。臨床検体に基づく分子プロファイリングは、地域医療の質を根本から変える可能性を秘めています。研究所として、地域の医療課題に真正面から向き合い、成果を出す覚悟で取り組んでいます。

### Q 地域連携、外部連携で期待すること

岩手には、TOLICをはじめ医療系ベンチャーや研究機関が集積する強みがあります。大学の研究力と地域の技術・産業基盤を結びつければ、創薬・医療機器開発の可能性は飛躍的に広がります。私は、地域企業が挑戦できる環境を大学が作り、地域全体で医療イノベーションを育てる“共創の生態系”を築きたいと考えています。その中心に本研究所が立ちます。

### Q 医歯薬総合研究所の今後の展望、目指すもの

私たちが目指すのは、地域に根ざしながら世界水準の成果を生み出す“強い研究所”です。若手が挑戦し続けられる環境を整え、産学官金連携を深化させ、創薬・医療機器開発を継続的に生み出す仕組みを確立します。地域の医療課題に応えるだけでなく、未来の医療を切り拓く研究所として、岩手医科大学の研究戦略を牽引していきます。

### Q 教職員へメッセージ

研究所の力は、皆さん一人ひとりの専門性と情熱の総和です。再構築を機に、学部や領域の垣根を越えた協働がこれまで以上に重要になります。互いの知を持ち寄り、新しい挑戦を恐れず、一歩踏み出す文化をともに作りたいたいと思います。岩手から未来の医療を生み出す。その中心に、皆さんの力が必要です。

## 事業計画

## 1. 策定方針

本法人は、最新の生命科学に対応した「教育・研究・診療」を実践し、将来の更なる発展のため、総合移転整備計画を策定し、開学以来拠点としていた内丸キャンパスから矢巾キャンパスへ大学施設の段階的整備を進め、2019年度には国内有数の規模を誇る附属病院が竣工、内丸メディカルセンターとともに開院に至り、医療系総合大学の新たな歴史を歩み出した。

本来、2020年度以降は病院の運営を軌道に乗せ、内丸メディカルセンター新棟建設並びに内丸跡地の再開発に向けた事業資金を確保しつつ、事業を推進する計画であったが、附属病院建設に係る借入金返済が始まった中、学生収容定員未充足に伴う学納金収入の減少や新型コロナウイルス感染症の拡大による診療・手術制限等に伴う医療収入の減少、急性期医療を取り巻く環境の変化や少子高齢化、更には近年の物価高騰等に伴う支出の増大が法人経営に甚大な影響を与え、各事業の見直しを余儀なくされた。

また、2024年には医師の働き方改革が施行され、医師不足が顕著な本県においては、附属病院と内丸メディカルセンターの2病院の診療体制を維持しつつ、地域の医療機関へ医師を派遣することは、医師の負担が非常に大きく、加えて、内丸キャンパス建物群は築50年が経過し、老朽化が著しい状況にあるため、2026年4月に歯科及び一部の医科を除いた内丸メディカルセンターの診療機能を附属病院へ集約する判断に至った。

このような状況を踏まえ、本法人は、医育機関としての役割、高度医療の提供、地域医療に貢献する体制を維持し、永続的に法人を運営していくため、「学校法人岩手医科大学中期計画 Vision2025-2029」を策定し、全学を挙げて諸計画を実行することとした。

2026年度は中期計画を基にし、前年度に引き続き、質の高い教育・研究・診療活動の実践、国家試験合格率の向上、学生の確保、医療収入の増収、恒常的経費の抑制等に努めるとともに、新たな経営戦略として、医歯薬総合研究所を改編し、創薬研究に特化した研究体制の構築、地域産業や他大学と連携した産官学連携、学部・基礎・臨床の垣根を超えた共同研究を創出し、リサーチマインドのある優秀な人材の確保や育成、補助金や寄付金等の外的資金の獲得を目指す。

また、岩手県の医療偏在と医師負担増に対応するため、医療DXやAIの利活用、遠隔医療基盤を整備することで、業務の効率化、研究時間の確保及び経営基盤の強化を実現し、大学病院機能と地域医療支援体制を持続的に強化する事業を展開する。

私立大学や大学病院における経営環境が一層厳しさを増す中、本法人は地域・社会の信頼を得て、安定的且つ継続的な財務基盤を構築していくことが重要であることから、研究成果の社会実装や高度医療の提供を通じて地域社会への還元体制を再構築し、本来、大学が果たすべき人材育成・研究推進・高度医療の機能を総合的に強化するとともに、持続可能な経営基盤を確立する。

## 2. 主要な事業計画

※掲載内容は、「令和8(2026)年度事業計画書」を抜粋したものです。  
詳細は、本学ホームページ(情報公開→令和8年度)をご覧ください。

## 1. 経営・財務改善関係

- ①経営・財務改善に向けた取り組み
- ②岩手医科大学附属病院(本院)への診療体制の集約化
- ③医歯薬総合研究所の改編を含む研究体制の再構築

## 2. 教育・研究関係

- ①大学院医学研究科：入学者確保と大学院教育課程の充実の推進
- ②医学部：学修支援体制の強化による医師国家試験合格率と進級・卒業率の向上
- ③大学院歯学研究科：教育課程の充実と大学院生の確保
- ④歯学部：教育の質の向上に向けた教育改革の推進
- ⑤歯学部：入学生確保の取り組みの推進
- ⑥大学院薬学研究科：教育の質向上と学生確保
- ⑦薬学部：入学者確保に向けた薬学部の魅力・発信力の強化
- ⑧薬学部：教育の質向上と学修成果・教育成果の可視化
- ⑨看護学部：看護学部の発展に向けて教育研究基盤を向上させていくための取り組み
- ⑩教学IR(Institutional Research)の充実

- ⑪全学的教育改革の支援活動
- ⑫教養教育、準備教育に係る教育見直しと高大連携の改善
- ⑬学生支援体制の推進
- ⑭入試制度改革の推進と戦略的な学生募集活動
- ⑮学生のキャリアビジョンを拡げ、希望する就職を実現するための支援
- ⑯教務システムの更新と Web ポータルサイト及び Web シラバスの導入
- ⑰マルチメディア教室ノートパソコンの更新
- ⑱実習関連機器等（教養教育センター）の年次更新
- ⑲矢巾キャンパスの教育環境の整備
- ⑳シミュレーション教育環境の整備
- ㉑研究機器の共用推進、研究施設の利用者数増加のためのサービス内容の周知、研究施設スタッフのスキルアップ
- ㉒産官学連携を通じた研究成果の社会還元への推進
- ㉓岩手医科大学医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持

### 3. 補助事業及び委託事業関係

- ①日本災害医療ロジスティクス研修
- ②災害時実践力強化事業
- ③災害医療研修会
- ④いわての師匠事業
- ⑤東北メディカル・メガバンク計画
- ⑥岩手県ドクターヘリ運航事業
- ⑦岩手県高度救命救急センター運営事業
- ⑧総合周産期母子医療センター運営事業
- ⑨岩手県こころのケアセンター事業
- ⑩いわてこどもケアセンター運営事業

### 4. 診療関係

- ①病院機能評価の更新審査受審に関する取り組み
- ②医療の質を示す指標（QI）に関する取り組み
- ③医師の時間外労働規制に対する取り組みの推進
- ④管理栄養士増員による増収計画
- ⑤仮想サーバ更新
- ⑥医療情報システム一部機能追加・部分改修
- ⑦臨床研究 DX パッケージの導入
  - リアルワールドデータ活用による大学病院研究基盤の高度化 -
- ⑧ AI 活用型医療 DX による大学病院教育研究基盤強化事業
  - 臨床医の研究時間創出と診療報酬算定適正化を同時に実現する医療 DX -
- ⑨診療録 AI 音声入力による臨床医研究時間創出・教育研究基盤強化事業
  - 医療 DX による診療記録業務改革と大学病院の持続的経営基盤構築 -
- ⑩ AI を活用した医療説明動画作成支援システム導入事業
  - 医師の説明業務を標準化し、研究へ時間を再配分する医療 DX -
- ⑪バイタルデータ連携システム整備事業
  - 看護師業務を軽減し、医師業務の一部引受けを実現する医療 DX -
- ⑫医療 DX・遠隔医療基盤を活用した大学病院機能強化と地域医療支援体制の構築
  - セキュア遠隔電子カルテ運用基盤の整備による研究時間の創出 -
- ⑬県立病院とのオンライン診療による地域医療支援と臨床医の研究時間創出を両立する大学病院強化事業

### 5. 管理運営関係

- ①ガバナンス・コードに基づく法人運営の推進
- ②事業活動資金の確保に向けた募金活動の展開
- ③デジタル技術（ワークフローや RPA 等）を活用した事務局の業務効率化の推進
- ④予算管理と経営再建の強化
- ⑤資金管理とリスク対応
- ⑥固定資産の適正な管理及び有効活用の推進
- ⑦勤怠システムの導入について
- ⑧障害者雇用の推進
- ⑨情報セキュリティ対策
- ⑩ネットワーク及びサーバの持続可能な保守体制の構築
- ⑪標準的な内部監査手続きの徹底による法人運営の効率化に資する内部監査の実施

### 6. 施設設備関係

- ①内丸地区活用検討の推進
- ②内丸キャンパス建物閉鎖に係る設備改修工事
- ③内丸メディカルセンター閉鎖に伴う内丸総合情報センターサーバ室の移設検討
- ④資料の落下対策

本法人は、2025 年度から 2029 年度にかけての主要計画を取りまとめ、2025 年 3 月に「Vision 2025-2029 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定しました。

令和 8（2026）年度事業計画は、この中期計画に基づき策定しています。詳細は、学内限定ホームページ（職員の皆様へ）で閲覧できますので、職員の皆様におかれましては、ぜひご覧ください。



## 名誉教授称号授与式が挙行されました

3月31日（火）、本部棟4階大会議室において、名誉教授称号授与式が行われました。

式では、祖父江理事長が麻酔学講座鈴木健二教授、生物学科松政正俊教授に名誉教授の称号を授与し、これまでの大学への貢献に対して感謝の言葉を送りました。



後列（左から）：仲副学長、小笠原学長、下沖医学部長  
前列（左から）：松政名誉教授、祖父江理事長、鈴木名誉教授

## 辞令交付式が挙行されました

4月1日（水）、大堀記念講堂において、令和8年度新入職員辞令交付式が挙行され、61名が岩手医科大学の一員となりました。

式では新入職員を代表し、薬剤部薬剤師の菅原祐さんが祖父江理事長より辞令書を受け取りました。NICU看護師の佐々木優奈さんは「高い倫理観を持ち、感謝の気持ちを忘れず、質の高い医療を実践し、多くの笑顔を守れるよう、努力していきたい」と力強く誓詞を述べました。

### ■採用者内訳

事務員 5名、薬剤師 2名、理学療法士 3名、  
言語聴覚士 1名、歯科衛生士 2名、視能訓練士 2名、  
看護師 46名



NICU 看護師 佐々木 優奈さんによる新入職員誓詞

## 第2回岩手医工・産学連携フォーラムが開催されました

4月3日（金）、災害時地域医療支援教育センターにおいて、岩手県の医療課題解決と医療関連機器産業の発展及びこの分野における人材育成と定着を目的とした第2回岩手医工・産学連携フォーラムが開催され、119名の産官学金関係者が参加しました。

当日は佐々木淳岩手県副知事から医工連携・産学連携への期待を来賓挨拶として頂戴し、研究者と企業からそれぞれシーズの発表がありました。また、連携を推進するための研究施設・設備の見学会が行われました。

本フォーラムを通じて、医療と工学、産業界が一体となった連携の重要性が改めて共有され、今後の具体的な共同研究や人材育成の展開に向けた有意義な機会となりました。



会場の様子

## 医療専門学校入学式が挙行されました

4月4日（土）、歯学部4階講堂において、令和8年度岩手医科大学医療専門学校の入学式が挙行され、本学校の教職員、在校生、保護者が出席しました。

式では、入学生28名の呼名の後、小林校長から入学の許可が宣言されました。入学生を代表し小國千陽さんが「本校の学生としての自覚を持ち、先生方のご指導を仰ぎ勉学に精進します」と宣誓がありました。

医療人としての道の第一歩を踏み出した入学生は、期待に胸を膨らませているようでした。



歯学部4階講堂で挙行了した入学式

## 岩手医科大学入学式が挙行されました

4月9日（木）、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールにおいて、令和8年度岩手医科大学入学式が挙行され、本法人役員や教職員をはじめ、多数の保護者が出席されました。

今年度は大学院医学研究科博士課程 23 名・修士課程 5 名、歯学研究科博士課程 5 名、薬学研究科博士課程 3 名、医学部 130 名・3 年次編入学 2 名、歯学部 44 名・2 年次編入学 2 名、薬学部 37 名、看護学部 81 名・3 年次編入学 2 名の入学生を迎えました。



トーサイクラシックホール岩手 大ホールで挙行した入学式



学部代表者による入学生宣誓



医学部3年 神本絵梨子さんによる在学生歓迎の辞

## 日本病院薬剤師会 武田泰生会長による特別講義が開催されました

令和8年4月13日（月）、キャリア支援センター薬学部会主催による特別講義が開催されました。講師には、一般社団法人日本病院薬剤師会会長 武田泰生先生をお迎えし、薬学部4・5年生を対象に「次世代医療に求められる薬剤師の職能と責務 一病院薬剤師の魅力とキャリア形成」をテーマにご講演いただきました。

講義では、人口動態や疾病構造の変化に伴う薬剤師を取り巻く環境の変遷、医師と連携したチーム医療への関わり、病院薬剤師のやりがい・魅力について具体的にご紹介いただきました。さらに、これからの薬剤師には「プロフェッショナリズムの醸成」が重要であるとの示唆があり、本講義は、学生にとって、今後の学びや進路を考えるうえで大きな気づきを得る機会となりました。



武田会長と受講者の集合写真

## 4学部合同セミナーが行われました

4月18日（土）、矢巾キャンパスにおいて、4学部合同セミナーが開催されました。この科目は、4学部最終学年の必修科目で専門職連携教育の集大成として位置づけられ、事前に提示された症例を複数の学部の混成チームによりPBL（問題基盤型学習）形式で検討するものです。

当日は、チームで患者さんへの治療方針等について議論し、インフォームドコンセントを想定して患者さんへの説明内容を検討しました。専門知識を修得した学生が患者さんの立場に立ち、他学部の学生と共に治療方針の検討を行うことで、医療現場における多職種連携の重要性について理解を深めました。

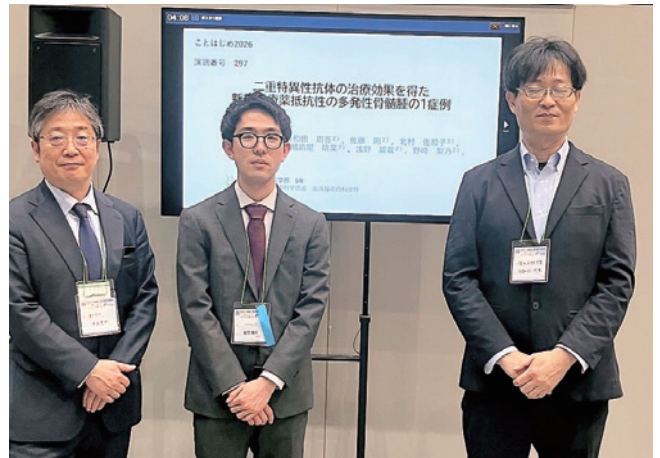


チーム作業（他学部との治療方針の検討）

## 表彰の栄誉

### 医学部5年生の菊池 陽太 さんが 第123回日本内科学会 ことはじめ2026で優秀演題賞を受賞しました

この度、医学部5年生の菊池陽太さんが、第123回日本内科学会 ことはじめ2026において、演題「二重特異性抗体の治療効果を得た新規治療薬抵抗性の多発性骨髄腫の1症例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。今回、新規治療薬を含む抗癌剤治療を数サイクル行うも、治療効果不良にてテクリスタマブ開始後、長期間の寛解を維持している症例を報告しました。菊池さんは3年生の研究室配属を血液腫瘍内科で行い、T細胞の「疲弊化」を臨床検体で測定する研究を行いました。今回、抗がん剤や二重特異性抗体によるT細胞の疲弊化を測定し、治療効果との関連を明らかにした点が受賞につながりました。



伊藤教授、菊池さん、古和田講師

また、指導した古和田周吾講師には指導教官賞が授与されました。お二方とも、今後益々のご活躍を期待しております。

(文責：内科学講座血液腫瘍内科分野 助教 西谷 真来)

### 医学部4年生の月本 馨次郎 さんが 日本解剖学会総会・全国学術集会において献体協会賞を受賞しました



授賞式の様子 (左から4番目が月本さん)

この度、第131回日本解剖学会総会・全国学術集会において、医学部4年生の月本馨次郎さんが献体協会賞（トラベルアワード）を受賞しました。

月本さんは、研究室配属を契機として解剖学講座人体発生学分野で骨盤部の解剖に関する研究に取り組み、配属期間終了後も継続して研究を発展させ、今回の受賞に至りました。受賞演題は、「骨盤解剖における新たな視野展開法への挑戦—骨盤開帳法（Pelvic Open-Book Exposure）—」です。

本研究では、従来の骨盤解剖における課題を踏まえ、骨盤内の解剖学的な位置関係を保持したまま簡便に視野を展開できる新たな方法を考案し、その有用性を検討しました。その結果、本方法は骨盤部の神経・脈管構造の剖出に有用である可能性が示され、解剖学実習やCSTにおける学修の質向上への貢献が期待されます。

本研究の実施にあたり、ご助力を賜りました技術員の高橋さんをはじめ、解剖学講座所属の皆様に深く感謝申し上げます。月本さんの今後のさらなる活躍を期待します。

(文責：解剖学講座人体発生学分野 教授 木村 英二)

1. 評議員の選任について（理事会選出分）

第2号評議員（職員区分）  
 神経精神科学講座教授 八木 淳子（新任）  
 事務局病院事務部長（2026年4月1日付事務局長）  
 村山 裕孝（新任）  
 （任期 2026年3月27日から  
 2030年度定時評議員会終結の時まで）

2. 役職者の選任について

附属病院長代理 小笠原 邦昭  
 （任期 2026年4月1日から次期附属病院長選任まで）

3. 教員の人事について

放射線医学講座 教授  
 田中 良一  
 （前 口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 教授）  
 生化学講座分子医化学分野 教授  
 木村 彰宏  
 （前 日本新薬株式会社生物研究部門 キャリア幹部職）  
 基盤的研究部門 教授  
 吉岡 芳親（前 同研究所 客員教授）  
 基盤的研究部門 教授  
 和田 学（前 同研究所 非常勤講師）  
 創薬・医療機器開発部門 教授  
 世良田 聡（前 同部門 准教授）  
 産婦人科学講座 准教授  
 利部 正裕（前 同講座 特任准教授）

泌尿器科学講座 特任准教授  
 兼平 貢（前 同講座 講師）  
 （発令年月日 2026年4月1日）  
 創薬・医療機器開発部門 教授  
 田中 十志也  
 （現 東京大学先端科学技術研究センター 特任教授）  
 （発令年月日 割愛の状況による）

4. 職員就業規則等の一部改正について

職員就業規則については、特別休暇取得事由の確認方法、健康管理休暇、通院休暇、子の看護等休暇、介護休暇、出生サポート休暇、病気休暇並びに承認申請手続、交替等及び時差勤務者の勤務時刻及び休憩時間に関する項目を整備すること、岩手医科大学職員の介護休業及び介護短時間勤務に関する規程については、育児休業に関する規程名称に倣い「岩手医科大学職員の介護休業等に関する規程」に名称を変更すること、再雇用職員の取扱いに関する規程については、経過措置期間の満了に伴い、再雇用の採用基準に関する適用条件を削除することは、臨時職員に係る年次有給休暇の取扱要領については、働き方の多様化（短時間勤務者の増加）に伴い、年次有給休暇の付与日数及び休暇単位を整理することとし、それぞれ一部改正することを承認した。

（施行年月日 2026年4月1日）

5. 評議員会の開催日時及び議題・議案等について

1. 理事の選任について

医学部長 赤坂 真奈美（新任）  
 （任期 2026年4月1日から  
 2029年度定時評議員会終結の時まで）

2. 2025年度補正予算について

3. ガバナンス・コードの実施状況に関する報告書の作成について

各部門等で点検した本法人ガバナンス・コードの実施状況を2025年度の報告書として取り纏め、本学ホームページ上へ公表することについて審議し、評議員会の諮問を経て最終決定した。

4. 中期計画の一部変更及び2026年度事業計画について

5. 2026年度予算について

6. 役職者の選任について

医学部副学部長 前田 哲也（再任）  
 医学部副学部長 村木 靖（新任）  
 （任期 2026年4月1日から2年間  
 医学部長の任期満了日まで）

7. 教員の人事について

法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 教授  
 熊谷 章子（前 同分野 特任教授）  
 物理学科 教授  
 奥村 健一（前 同学科 准教授）  
 （発令年月日 2026年4月1日）  
 病態薬理学講座薬剤治療学分野 教授  
 細畑 圭子（前 姫路獨協大学薬学部医薬品情報学研究室 教授）  
 生化学講座分子医化学分野 教授  
 木村 彰宏（前 日本新薬株式会社生物研究部門キャリア幹部職）  
 （発令年月日 2026年5月1日）

8. 組織規程の一部改正について

研究用超高磁場7テスラMRI装置の運用停止（2025年12月）に伴い、医歯薬総合研究所超高磁場先端MRI研究センターを廃止することとし、組織規程の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2026年4月1日）

9. 岩手医科大学学則の一部改正について

学部毎に学生の在学年限を定めることで、柔軟な学部運用を可能とすること、また、2026年度の教育課程再編に伴い、別表1を変更することとし、岩手医科大学学則の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2026年4月1日）

10. 教育職員の定員に関する規程の一部改正について

医歯薬総合研究所における研究の充実・強化を目的として、医学部運用定員の任期付助教枠を減員し、当該研究所に任期付助教枠を増設することとし、教育職員の定員に関する規程の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2026年4月1日）

11. 附属病院に係る土曜日の診療体制について

病院及び大学職員を対象に実施したアンケート調査結果や各種意見を参考に、経営戦略の観点から具体的な診療体制について検討を行った結果、原則として第1土曜日を診療日とし、第1土曜日が祝日の場合は第2土曜日を診療日とすること等、連休の状況も踏まえながら毎年2月を目途に翌々年度の土曜診療日を確定した上で通知すること、また、本診療体制の変更は2026年10月から実施することを承認し、大学側の体制は引き続き各部門の意見を聴取しながら整備していくこととした。

12. 理事の職務担当区分について

13. 名誉教授の称号に関する規程の一部改正について

名誉教授称号授与基準の功績を審議するため、名誉教授選考評議会を設置することとし、名誉教授の称号に関する規程の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2026年4月1日）

1. 理事の競業について  
2. 役職者の選任について

学生副部長 (医学部) 小原 航 (再任)  
総合情報センター長 田中 良一 (再任)  
(任期 学生副部長 (医学部) は令和8年4月1日から3年間、総合情報センター長は同日から2年間)

3. 次期電子カルテシステムのハードウェアの先行手配について

附属病院で利用している富士通の電子カルテは、2018年2月の更新から8年が経ちトラブルが散見され、サーバ保守が2026年度で終了となることから、安定したシステム運用のため2027年度の更新を予定しているが、現在ハードウェア市場においてコストが高騰し、5月以降に発注した場合、相当の値上がりが見込まれ、短期的に価格が元に戻る見込みが薄いと判断されることから、ハードウェアに限って先行手配を行うことを承認した。

# 新任教授の紹介

令和8年4月1日就任

法科学講座法歯学・災害口腔医学分野  
**熊谷 章子** (くまがい あきこ)



教職員への自己PR

平成29年本学に法歯学・災害口腔医学分野が新設され9年が経過、これまで学内外の方々や関係機関の助けを頂き、学生教育、卒後研修、研究、そして社会の諸問題解決に取り組んで参りました。この度同分野教授を拝命し、更に身を引き締め、有識者の方々のお力をお借りしながら、社会が時間と共に変化するスピードに合わせて、様々な事項に取り組んでゆきたい所存です。皆様には今後ご指導のほど何卒よろしくお願いたします。

主な経歴

- 平成6年3月 岩手医科大学歯学部 卒業
- 平成6年5月 慶応義塾大学病院歯科口腔外科学教室 入局
- 平成19年3月 岩手医科大学大学院医学研究科法医学専攻 博士課程 修了
- 平成19年4月 岩手医科大学歯学部口腔外科学第二講座 (現 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野) 入局
- 平成28年9月 ルーヴェンカトリック大学法歯学 マスタープログラム 修了
- 平成29年4月 岩手医科大学法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野 准教授
- 令和5年10月 岩手医科大学法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野 特任教授
- 令和8年4月 現職

研究テーマ

科学的な身元不明者個人識別法の追求

主な著者論文

- Validation of data mining models by comparing with conventional methods for dental age estimation in Korean juveniles and young adults. Sci Rep 2023; 13(1), 726.
- Validation of morphological ear classification devised by principal component analysis using three-dimensional images for human identification. PLOS ONE 2024; 19 (10), e0306843.
- Measures for constructing virtual disaster training based on social issues surrounding death. Res Pract Forens Med 2025; 68, 179-184.

趣味

ピアノ演奏、ランニング

令和8年4月1日就任

臨床薬学講座地域医療薬学分野  
**松浦 誠** (まつうら まこと)



教職員への自己PR

令和8年4月1日付で地域医療薬学分野の教授を拝命いたしました。特任教授として7年間、皆様のご支援とご協力を賜りながら、地域医療に貢献する薬剤師養成に取り組んでまいりました。岩手・東北は、超高齢化と医療資源不足という日本が直面する課題の先行モデルです。この地において、地域住民の健康を支える薬剤師の充実、まさに喫緊の課題であります。地域医療はチーム医療の象徴であり、医療系総合大学である本学が持つ多職種連携の強みを最大限に発揮することが、その解決への鍵になると確信しております。これまで培ってきた経験と知識を礎に、皆様とともに地域医療のさらなる発展に貢献できるよう、誠心誠意努力してまいります。何卒ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願申し上げます。

主な経歴

- 平成3年3月 東日本学園大学薬学部 卒業 (現 北海道医療大学薬学部)
- 平成3年4月 岩手県立久慈病院 薬剤師
- 平成10年4月 岩手県立胆沢病院 薬剤師
- 平成19年4月 岩手県立北上病院 主任薬剤師
- 平成20年4月 岩手医科大学薬学部創制学講座 講師
- 平成29年1月 岩手医科大学薬学部地域医療薬学講座 准教授
- 令和1年4月 岩手医科大学薬学部臨床薬学講座 地域医療薬学分野 特任教授
- 令和8年4月 現職

研究テーマ

AI 医療情報の信頼性・正確性に関する科学的検証

主な著者論文

- 薬学長期実務実習における唾液アミラーゼ活性値を指標としたストレス評価のパイロット研究 医薬品相互作用研究 .44 巻.1 号 22-32 (2020)
- The Effect of Taurine, a Novel Biochemical Modulator, on the Antitumor Activity of Doxorubicin. Biol. Pharm. Bull., 32(9):1584-1587 (2009)
- Response to ATP is accompanied by Ca<sup>2+</sup> influx via P2X purinoceptors in the coronary arterioles of golden hamsters. Arch Histol Cytol 67: 95-105 (2004)

趣味

スポーツ観戦

令和8年4月1日就任

共通基盤看護学講座

佐藤 奈美枝 (さとう なみえ)



研究テーマ

看護職員の人材育成、看護職のキャリア形成、成人学習

主な著者論文

- エンゼルメイクを取り入れた成人看護学演習による学習効果-演習シートの記述内容からの考察-, Palliat Care Res, 20(1), 37-42, 2025.
看護師長の承認行為獲得にむけた教育プログラムの有用性の検証, 岩手医科大学看護学部紀要, 1, 23-32, 2023.
看護師長が部下に対して行っている承認の構造の特性, 岩手県立大学看護学部紀要, 22, 1-13, 2020.

趣味

天体鑑賞 (主に国際宇宙ステーションの観測)、城巡り

教職員への自己PR

この度、共通基盤看護学講座の教授を拝命いたしました。これまでの臨床経験を基に、看護職の人材育成および看護管理者の能力開発に関する研究に取り組んでまいりました。臨床と教育の乖離が課題とされる中、学生の育成において両者の連携・協働の重要性は高まっています。本学附属病院との連携を基盤に臨床と教育の連携を深め、地域に根ざした看護の発展に貢献できる人材の育成に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

主な経歴

- 平成4年3月 岩手看護専門学校本科 卒業
平成4年4月 岩手医科大学附属病院 入職
平成15年3月 放送大学教養学部 卒業
平成17年3月 厚生労働省看護教員養成課程 修了
平成21年3月 岩手県立大学大学院看護学研究科博士前期課程 修了
平成22年4月 岩手医科大学附属病院 主任看護師
平成27年4月 岩手医科大学附属病院 看護師長(教育担当)
平成28年6月 日本看護協会認定 認定看護管理者(CNA)
平成30年4月 岩手医科大学看護学部共通基盤看護学講座 助教
令和3年3月 岩手県立大学大学院看護学研究科博士後期課程 修了
令和3年4月 岩手医科大学看護学部共通基盤看護学講座 特任准教授
令和5年4月 岩手医科大学看護学部共通基盤看護学講座 准教授
令和8年4月 現職

令和8年4月1日就任

共通基盤看護学講座

野里 同 (のざと ひとし)



研究テーマ

- 看護技術、皮膚創傷ケアのEBPの構築・推進
インストラクショナルデザイン (ID) に基づく看護教育の実践

主な著者論文

- カテコラミン製剤の漏出性皮膚傷害に対する罨法の効果に関する基礎研究, JJNS, 41, 391-394, 2022.
カテコラミン製剤の血管外漏出による皮膚傷害に関する基礎研究, JJNAS, 19, 146-153, 2020.
加圧部皮膚温の上昇が褥瘡発生に与える影響, JPU, 22(4), 397-400, 2020.
手術時に使用される加温装置が関連した皮膚傷害に関する基礎研究, JPU, 22(4), 418-421, 2020.

趣味

スポーツ全般、ドライブ

教職員への自己PR

初代教授の三浦まゆみ先生、二代目教授の葛蒲澤幸子先生の後任として、このたび私が三代目の大役を務めさせていただくことになり、大変身に引き締まる思いをしております。今後は、岩手医大からケアの新しいスタンダードを創出し、より質の高い看護ケアが提供できるよう、臨床の看護師の皆様や諸先生方と協力しながら研究を進めていく所存です。また、次世代を担う看護師の育成に向けてIDの教授法を用いながら教育にも力を注いでまいります。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

主な経歴

- 平成14年3月 岩手大学教育学部 卒業
平成16年3月 盛岡市医師会附属准看護学院 卒業
平成16年4月 荻野病院回復期リハビリテーション病棟 准看護師
平成20年3月 岩手看護専門学校別科 卒業
平成20年4月 岩手医科大学附属病院眼科病棟 看護師
平成23年4月 岩手医科大学附属病院CCU 看護師
平成25年3月 岩手県立大学大学院看護学研究科博士前期課程 修了
平成29年4月 岩手医科大学看護学部共通基盤看護学講座 助教
平成30年3月 岩手県立大学大学院看護学研究科博士後期課程 修了
令和3年4月 岩手医科大学看護学部地域包括ケア講座 准教授
令和8年4月 現職

令和8年4月1日就任

物理学科

奥村 健一 (おくむら けんいち)



研究テーマ

ヒッグス粒子の起源や暗黒物質の正体など素粒子標準模型を超える物理、大学初年時における物理教育

主な著者論文

- mu -> e gamma and mu -> 3e processes with polarized muons and supersymmetric grand unified theories (Physical Review D, vol 61, 094001(2000))
Phenomenology of mixed modulus-anomaly mediation in fluxed string compactifications and brane models (Journal of High Energy Physics 09 (2005) 039)
Hide and seek with massive fields in modulus mediation (Physical Review Letters 123, 151801 (2019))

趣味

旅行、ツーリング

教職員への自己PR

令和8年4月1日付で、教養教育センター物理学科教授を拝命いたしました。令和3年4月に岩手医科大学に着任して以来、物理学科長として、医・歯・薬・看護の4学部における基礎教育としての物理教育に携わっております。物理学は国家試験に直接関係する科目ではないため、学生にはやや敬遠されがちですが、人体の働きや医療機器の動作を科学的に理解するうえで欠かせない基礎となる学問です。また、物理学の学修を通して、「なぜそのようになるのか」と疑問を持ち、暗記に頼るだけでなく自分の頭で考える姿勢を身につけることは、専門科目を学ぶうえでも大切だと感じています。物理学科では、時代の変化も取り入れながら、本学の学生にとって今求められる物理教育とは何かを考え続け、これからもより良い教育の提供に努めてまいります。今後ともご指導、ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

主な経歴

- 平成4年3月 京都大学理学部 卒業
平成6年3月 京都大学大学院理学研究科修士課程 修了
平成12年3月 総合研究大学院大学数物科学研究科博士後期課程 修了 理学博士
平成12年4月 東京大学宇宙線研究所 研究員
平成13年10月 Department of Physics, Lancaster University, Research Associate
平成15年9月 Department of Physics, Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST), Postdoctoral Researcher
平成20年4月 東北大学大学院理学研究科物理学専攻 助教
平成21年4月 九州大学理学研究院物理学部門 助教
令和3年4月 岩手医科大学教養教育センター物理学科 准教授
令和8年4月 現職

令和8年4月1日就任

創薬・医療機器開発部門

**世良田 聡** (せらだ さとし)



研究テーマ

疾患プロテオーム解析による病態解明と創薬・診断法の開発

主な著者論文

- ・ Serum leucine-rich alpha-2 glycoprotein is a disease activity biomarker in ulcerative colitis. *Inflamm Bowel Dis.*18(11):2169-79. 2012.
- ・ iTRAQ-based proteomic identification of leucine rich alpha 2 glycoprotein (LRG) as a novel inflammatory biomarker in autoimmune diseases. *Ann Rheum Dis.*69:770-774. 2010.
- ・ IL-6 blockade inhibits the induction of myelin antigen specific Th17 cells and Th1 cells in experimental autoimmune encephalomyelitis. *Proc Natl Acad Sci U S A.*105:9041-9046. 2008.

趣味

三国志、釣り

教職員への自己PR

令和8年4月1日付で、医歯薬総合研究所創薬・医療機器開発部門の教授を拝命いたしました。私はこれまで、疾患プロテオーム解析を基盤として、創薬・診断薬候補分子の探索から実用化までを見据えた研究に取り組んでまいりました。今後は、医・歯・薬・看護学部の先生方と密接に連携しながら、疾患関連分子の探索を進め、岩手医科大学発の創薬・診断薬開発につなげてまいりたいと考えております。また、次世代を担う若手研究者の育成にも力を注ぎ、研究・教育の両面から本学に貢献してまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

- 平成14年3月 京都工芸繊維大学繊維学部応用生物学科 卒業  
【学士(農学)】
- 平成16年3月 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士前期課程 修了  
【修士(農学)】
- 平成19年3月 大阪大学大学院生命機能研究科 修了【博士(理学)】
- 平成19年4月 医薬基盤研究所免疫シグナルプロジェクト 特任研究員
- 平成20年1月 医薬基盤研究所免疫シグナルプロジェクト 研究員
- 平成28年8月 高知大学次世代医療創造センター 特任准教授
- 令和2年2月 高知大学臨床免疫学講座 准教授
- 令和3年4月 岩手医科大学医歯薬総合研究所分子病態解析部門 准教授
- 令和7年10月 岩手医科大学医歯薬総合研究所創薬・医療機器開発部門 准教授
- 令和8年4月 現職

令和8年4月1日就任

基盤的研究部門

**吉岡 芳親** (よしおか よしちか)



研究テーマ

磁気共鳴法を用いた生体機能イメージング

主な著者論文

- ・ In vitro characterization of lung cancers by the use of 1H-nuclear magnetic resonance (NMR) spectroscopy of tissue extracts and discriminant factor analysis. *Magn Reson Med* 1993; 29: 436-440.
- ・ Noninvasive measurement of temperature and fractional dissociation of imidazole in human lower leg muscles using 1H-nuclear magnetic resonance spectroscopy. *J Appl Physiol* 2005; 98: 282-287.
- ・ From cartoon to real time MRI: in vivo monitoring of phagocyte migration in mouse brain. *Sci Rep* 2014; 4: 6997.
- ・ Utilization of potato starch suspension for MR-microimaging in ex vivo mouse embryos. *iScience* 2022; 25: 105694.

趣味

散歩

教職員への自己PR

令和8年4月付で医歯薬総合研究所・基盤的研究部門教授を拝命いたしました。私は磁気共鳴法の多様性に魅了され、多数のNMR・MRI装置を活用させていただき、様々な生体情報の取得や可視化を行ってまいりました。2023年春には11.7T-MRI装置を本学に移設させていただき稼働させております。この装置は小動物や固定標本などが対象ですが、非常に高性能であり、今までは取得困難であった情報や新たな情報の取得が可能になってきております。この装置を駆使し、創薬・治療・診断に繋がる新たな情報を引き出して行きたいと考えております。何卒宜しくお願い致します。

主な経歴

- 昭和52年3月 大阪大学理学部 卒業
- 昭和54年3月 神戸大学大学院理学研究科 修了
- 昭和58年9月 大阪大学大学院理学研究科博士後期課程 修了
- 昭和58年10月 同学理学部量子化学講座 研究員
- 昭和59年2月 岩手医科大学医学部生理学第二講座 助手
- 昭和63年1月 岩手医科大学医学部生理学第二講座 講師
- 平成16年6月 同学先端医療研究センター 講師
- 平成19年10月 同学先端医療研究センター 准教授
- 平成20年2月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任教授(常勤)
- 平成29年4月 同学先導的学際研究機構 教授
- 平成31年4月 同学大学院生命機能研究科 特任教授(常勤)
- 令和5年3月 岩手医科大学医歯薬総合研究所 客員教授
- 令和8年4月 現職

令和8年4月1日就任

基盤的研究部門

**和田 学** (わだ まなぶ)



研究テーマ

AI創薬、標的探索、新規医薬品プロトタイプの創出

主な著者論文

- ・ Antibody design using LSTM based deep generative model from phage display library for affinity maturation. *Sci Rep.* 2021 Mar 12;11(1):5852.
- ・ A bispecific antibody to factors IXa and X restores factor VIII hemostatic activity in a hemophilia A model. *Nat Med.* 2012 Oct;18(10):1570-4.
- ・ 医薬品モダリティにおける創薬技術開発と展望. 第8章: 自然言語 AIを活用した創薬標的探索研究開発. ISBN: 978-4-86502-271-1.

趣味

ドライブ、作曲

教職員への自己PR

令和8年4月1日付で医歯薬総合研究所基盤的研究部門教授を拝命いたしました。今まで研究者としての大半を製薬企業での創薬研究に注いで参りました。科学は日々進歩し、新たな技術が次々と生まれている一方で、基礎研究と創薬の間には、取り組む価値のある課題が数多く存在します。AIと情報を駆使して標的の枯渇を打破し、斬新なアイデアを盛り込んだモダリティ技術により undruggable target に対する新たな医薬品の創出を目指します。創薬は総合科学です。学内外の様々な技術やシーズを持った方々と共創を進め、岩手発の新薬を生み出したいと考えています。よろしく願い申し上げます。

主な経歴

- 平成3年3月 岡山大学農学部総合農科学科 卒業
- 平成5年3月 岡山大学大学院農学研究科修士課程 修了
- 平成5年4月 日本ケミカルリサーチ株式会社 入社
- 平成7年4月 科学技術振興事業団ERATO高井生体時系プロジェクト(出向)
- 平成12年5月 日本ケミカルリサーチ株式会社バイオサイエンス研究所 研究主任
- 平成16年7月 東京医科歯科大学医学部(ウイルス制御学教室) 講師
- 平成17年2月 中外製薬株式会社 入社
- 平成21年7月 中外製薬株式会社ゲノム抗体医薬研究部 課長
- 平成26年7月 中外製薬株式会社探索研究部 副部長
- 令和7年7月 科学技術振興機構(出向)研究プロジェクト推進部 主任研究員
- 令和8年4月 現職

令和8年5月1日就任

生化学講座分子医化学分野

木村 彰宏 (きむら あきひろ)



趣味

旅行・釣り・ゴルフ

教職員への自己PR

本年5月より生化学講座分子医科学分野の教授を拝命いたしました。免疫は多層的なネットワークで成立し、その破綻は原因も病態も多彩な免疫疾患として表れます。大学・国立研究所・企業で培った視点を融合し、免疫応答の新規制御機構の解明と創薬へつなげる研究を推進します。異分野・産学官連携を積極的に進め、得られた知見を臨床応用へ橋渡しすることを旨とするともに、学生・院生が挑戦できる研究環境づくりと丁寧な教育に努めて参ります。地域と本学の発展に貢献して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

主な経歴

平成13年3月 北海道大学水産学部 卒業
平成15年3月 大阪大学大学院医学系研究科分子病態内科学専攻修士課程 修了
平成19年3月 大阪大学大学院医学系研究科分子病態内科学専攻博士課程 修了
平成19年4月 日本学術振興会 特別研究員(PD)
平成20年4月 大阪大学大学院生命機能研究科免疫機能統御学講座 助教
平成22年6月 慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室 助教
平成26年10月 国立国際医療研究センター免疫病理部門 室長
令和7年9月 日本新薬株式会社 幹部研究職(C)
令和8年5月 現職

研究テーマ

- 免疫応答シグナル制御機構
自己免疫疾患/炎症疾患の発症・増悪化メカニズム
創薬基盤研究

主な著者論文

- Extracellular aaRSs drive autoimmune and inflammatory responses in rheumatoid arthritis via the release of cytokines and PAD4. (Ann Rheum Dis, 2023; 82: 1153-1161)
NQO1 inhibits the TLR-dependent production of selective cytokines by promoting IκB-ζ degradation. (J Exp Med, 2018; 215: 2197-2209)
Aryl hydrocarbon receptor in combination with Stat1 regulates LPS-induced inflammatory responses. (J Exp Med, 2009; 206: 2027-2035)

令和8年5月1日就任

病態薬理学講座薬剤治療薬分野

細畑 圭子 (ほそはた けいこ)



趣味

映画鑑賞、旅行、スイーツめぐり

教職員への自己PR

このたび、令和8年5月1日付で薬学部病態薬理学講座薬剤治療薬分野の教授を拝命いたしました。これまで、急性腎障害のバイオマーカーを同定しトランスレーショナルリサーチへと展開しながら、バイオマーカー分子の生理学的特徴に着目した腎疾患をターゲットにした創薬研究に取り組んできました。今後は、鑑別や重症化予測、予後予測マーカーになり得るか、その可能性を探索したいと考えています。また、副作用報告データベースを活用したリアルワールドデータ解析により治験段階では見出せなかった新規有害事象を明らかにするとともに、基礎研究でその機序解明をめざしたデータ駆動型研究にも取り組み、個別化医療をめざしたエビデンスの創出に向けて研究を進展させたいと考えています。

主な経歴

平成21年3月 京都大学大学院薬学研究科 修了
平成21年4月 自治医科大学医学部薬理学講座 助教
平成28年4月 大阪薬科大学臨床薬学教育研究センター 准教授
令和3年4月 大阪医科薬科大学(大阪医科大学との合併改名) 薬学部臨床薬学教育研究センター 准教授
令和6年10月 姫路獨協大学薬学部医薬品情報学研究室 教授
令和8年5月 現職

研究テーマ

腎臓薬理学、臨床薬理学、バイオマーカー

主な著者論文

- Design, synthesis, and evaluation of new vanin-1 inhibitors based on RR6, Bioorg Med Chem, 65: 116791, 2022.
In Vivo and In Vitro Evaluation of Urinary Biomarkers in Ischemia/Reperfusion-Induced Kidney Injury, Int J Mol Sci, 22: 11448, 2021.
Association of urinary vanin-1 with kidney function decline in hypertensive patients. J Clin Hypertens, 23: 1316-1321, 2021.
Involvement of Vanin-1 in Ameliorating Effect of Oxidative Renal Tubular Injury in Dahl-Salt Sensitive Rats, Int J Mol Sci, 20: 4481, 2019.

令和8年5月1日就任

創薬・医療機器開発部門

田中 十志也 (たなか としや)



趣味

けん玉、釣り、スポーツ観戦

教職員への自己PR

令和8年5月付で、医歯薬総合研究所 創薬・医療機器開発部門の教授を拝命いたしました。抗体模倣薬物複合体(AMDC)を基盤とした次世代創薬と、DNA損傷応答を標的とする統合的治療戦略の開発に取り組んでおります。基礎研究から前臨床研究までを一貫して推進し、新たな治療概念の創出を目指します。分野横断的な連携を重視し、医学・歯学・薬学の融合による研究の発展と、次世代研究者の育成に貢献してまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

主な経歴

平成2年3月 東京薬科大学薬学部薬学科 卒業
平成5年3月 東京薬科大学薬学研究科薬学専攻修士課程 修了
平成5年4月 グレラン製薬株式会社研究開発本部 研究員
平成12年4月 東京大学先端科学技術研究センタープロジェクト 研究員
平成16年9月 東京大学大学院工学研究科先端学際工学専攻博士課程 修了
平成16年10月 東京大学先端科学技術研究センター 特任助手
平成18年2月 東京大学先端科学技術研究センター 特任助教
平成19年12月 東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授
平成27年4月 東京大学先端科学技術研究センター 特任教授
令和8年5月 現職

研究テーマ

がんおよび代謝疾患に対する統合的治療戦略の創出

主な著者論文

- Activation of Peroxisome Proliferator-Activated Receptor δ Induces Fatty Acid β-oxidation in Skeletal Muscle and Attenuates Metabolic Syndrome. Proc. Natl. Acad. Sci. USA., 100, 15924-15929 (2003).
Overexpression of p54nrb/NONO induces differential EPHA6 splicing and contributes to castration-resistant prostate cancer growth. Oncotarget., 9: 10510-10524 (2018).
Glucose-activated JMJD1A drives visceral adipogenesis via α-ketoglutarate-dependent chromatin remodeling. Cell Rep., 44: 116060 (2025).







# 岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。  
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

## 学術振興資金募金

第33回目のご芳名紹介です。(令和8年2月1日～令和8年3月31日)

### ■ 法人・団体等 (2件)

<ご芳名のみ>  
株式会社 シミズ・ビルライフケア (東京都中央区)  
医学部13期(弥生会)一同  
(敬称略)

### ■ 個人 (3件)

<1,000,000> <ご芳名のみ>  
山本 和博(教職員) 斎藤 史宏(父母)  
<500,000> (敬称略)  
嶋森 好子(名誉教授)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	539	287,228,220
在 学 生 ご 父 母	407	97,820,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	48	113,730,000
教 職 員	50	8,640,000
一 般	30	489,153,572
法 人 ・ 団 体	336	446,953,980
合 計	1,410	1,443,525,772

(令和2年9月1日～令和8年3月31日現在)

## 歯学部支援基金を通じた寄付

第4回目のご芳名紹介です。(令和8年2月1日～令和8年3月31日)

### ■ 法人・団体等 (1件)

<500,000>  
歯学部24期同窓会  
(敬称略)

### ■ 個人 (5件)

<ご芳名のみ> 小原 宣裕(歯16)  
櫻井 義之(歯39) 児野 正明(歯13)  
下瀬川 健二(医41) (順不同、敬称略)  
小山田 勇樹(歯15)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	95	10,829,000
在 学 生 ご 父 母	13	1,470,000
一 般	1	100,000
法 人 ・ 団 体	7	4,110,000
合 計	116	16,509,000

(令和7年7月1日～令和8年3月31日現在)

## 岩手県ドクターヘリ寄付金

第3回目のご芳名紹介です。(令和8年2月1日～令和8年3月31日)

### ■ 法人・団体等 (1件)

<ご芳名のみ>  
高橋歯科医院 (岩手県盛岡市)  
(敬称略)

### ■ 個人 (3件)

<ご芳名のみ>  
佐々木 志津子、山田 和子、山田 斉  
(敬称略)

## 岩手医科大学報編集委員

祖父江 憲治 阿部 俊  
影山 雄太 杉下 佳子  
齋野 朝幸 石森 由樹  
藤本 康之 高橋 淳美  
白石 博久 伊藤 祥子  
佐藤 泰生 稲垣 学人  
藤澤 美穂 高橋美季子  
細田留美子 松田 悠史  
畠山 正充 菅 孔太郎  
藤村 尚子 曾根 美都  
高橋 慶

## 編集後記

去年に引き続き平年よりも早い開花となった桜もすっかり散ってしまい、新緑の季節になりました。今月号は就任挨拶や入学式等の記事を中心に、表紙の桜に相応しい春を感じる大学報となっております。この大学報が出る頃には、新入職員の皆様は新しい環境に少しは慣れてきている頃でしょうか。大学報を通じて、この職場のことをもっと知って頂ければと思います。

これから夏本番を迎えます。去年は、猛暑日が連日続いた厳しい年となりましたが、今年はどうなるのでしょうか。皆様、体調には十分気を付けてお過ごし下さい。

(編集委員 藤村 尚子)

## 岩手医科大学報 第565号

発行年月日/令和8年5月31日  
発行/学校法人岩手医科大学  
編集委員長/祖父江 憲治  
編集/岩手医科大学報編集委員会  
事務局/総務部 総務課  
TEL. 019-651-5111(内線5452、5453)  
FAX. 019-907-2448  
E-mail:kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷/河北印刷株式会社  
盛岡市本町通 2-8-7  
TEL. 019-623-4256  
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

# 省エネ推進委員会だより

## 令和7年度 冬の省エネ活動の実施結果について

職員の皆様には日頃より省エネ活動にご協力をいただき誠にありがとうございます。  
「冬季省エネ活動」の活動結果についてご報告いたします。

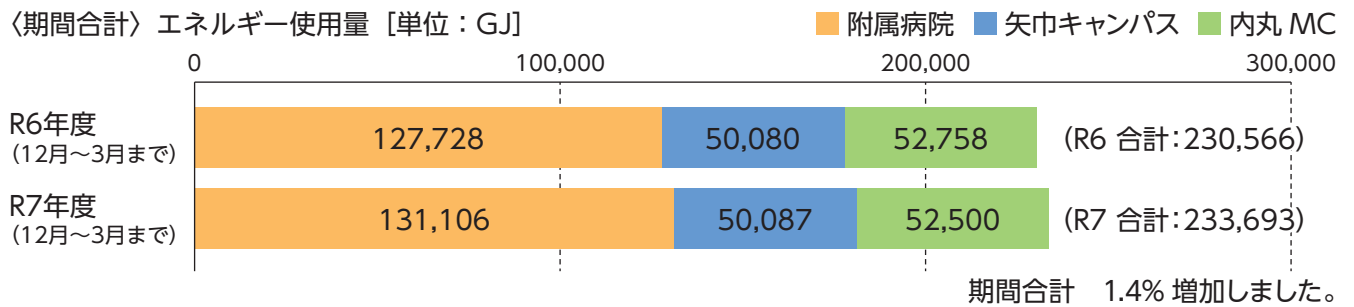
### 冬季省エネ活動概要

実施期間を令和7年12月1日から令和8年3月31日までとし、「主要3施設（矢巾キャンパス・附属病院・内丸メディカルセンター）の実施期間中におけるエネルギーの使用量を前年度比で1%削減する」ことを目標に次の活動を行いました。

- 【取組】 ①暖房設定温度の調整（室温22℃を目安） ②空調運転時間の調整 ③啓発ポスターの掲示  
④施設利用状況の巡視 ⑤月毎の取り組み状況報告

### 冬季省エネ活動実施結果

〈期間合計〉エネルギー使用量 [単位：GJ]



主要3施設の実施期間合計のエネルギー使用量は前年度比で1.4%の増加となりました。これは、1月の月平均気温が昨年同月と比べ2.5℃低く、降雪量も多かったため、エネルギーの使用量が大きく増加してしまったことによるものです。本活動へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

省エネ活動はできることからひとつずつ、皆様のご協力をお願いいたします。

## 定年を迎えられた教職員の皆様、 永い間お疲れ様でした



本年3月31日付で定年を迎え退職された皆様には、永い間岩手医科大学発展のためにご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。

- 4列目 高橋 寛 工藤 賢三 松本 主之 吉岡 邦浩 岸 光男 鈴木 健二 松政 正俊
- 3列目 桐内 美喜雄 鎌田 雅義 久保田 美子 奥 忍 亀田 由希江 川村 広美
- 2列目 佐々木 幸子 近藤 淑子 熊谷 真澄 中野 明子 鳥居 明美 狐崎 豊子 田村 ヤス子 吉田 理恵 齋藤 恵津子
- 1列目 山本 和博 森野附属病院長 河野薬学部長 下沖医学部長 小笠原学長 祖父江理事長 仲副学長 小林歯学部長 遠藤看護学部長 佐藤看護部長